

淡路島で見つかった兵庫県新産のツルギキョウ(キキョウ科)

—その生育状況と近畿地方における分布—

生嶋史郎¹・小林禧樹²

Shiro IKUSHIMA and Tomiki KOBAYASHI: *Codonopsis javanica* (Blume) Hook. f. et Thomson subsp. *japonica* (Makino) Lammers found for the first time in Hyogo Prefecture, from Awaji Island
 -Its growth status and the distribution in Kinki district -

まえがき

ツルギキョウ(キキョウ科)は山地に稀に生えるつる性の多年草で、暖帯の本州(関東地方以西)・四国・九州・台湾に分布している(佐竹ほか 1981)。近畿地方については大阪府や和歌山県の報告(村田 1956)や、奈良県(富永 2022)の報告はあるが、兵庫県については、黒崎・高橋(2006)や小林ほか(2012)にも報告がなかった。著者の一人、生嶋は淡路島の植物の調査・観察を行い、兵庫県新産のモメンヅル(生嶋・広瀬 2009)やイズノハコなど(生嶋・小林 2012, 生嶋 2012)について報告してきた。島内の調査を続ける中で、数年前に兵庫県では新産のツルギキョウが島内に分布することを確認した。本報ではツルギキョウの生態の観察結果と近畿地方における分布について報告する。

1 淡路島におけるツルギキョウの発見の経緯とその生育状況

「改訂増補・淡路島の植物誌」(小林ほか 2012)に記載のなかったツルギキョウが 2019 年に淡路島でみつかった。生育地は洲本市の 2 箇所であり、二次林の林縁およびその周辺である。以下に発見の経緯とツルギキョウの生育環境について記す。なお、ツルギキョウの自生地であるため池は、決壊時に人的被害等のおそれのあるため池(特定ため池)に指定されており、今後改修による自生地の消失が懸念される。ため池の改修に当たっては災害対策並びに貴重種保全の両面からの対策が必要と考える。

<発見の経緯>

第一発見者は洲本市在住の小松茂氏(洲本市議会議員、特定非営利活動法人あわじ FAN クラブ顧問)である。小松氏は、2019 年 11 月、洲本市にあるため池の防災対策を兵庫県に要望するため、ため池の水利組合の方々と一緒にそのため池の谷筋を調査していた。小松氏は調査の途中、同池の流入部付近(A 地点)と、300m ほど離れた、枯れた竹林内(B 地点)の 2 ヶ所で、紫色の果実をつけた見慣れない蔓草を発見、ツルギキョウと同定し、同氏が顧問を務める「特定非営利活動法人あわじ FAN クラブ」のインターネットサイトに写真とともに掲載していた。2023 年 9 月 23 日、小松茂氏の案内により、生嶋がツルギキョウ自生地 2 ヶ所で花と果実を確認した。その後 9 月 27 日に生嶋が小林を案内し標本が採集された(証拠標本参照)。

<生育状況>

今回ツルギキョウの生育が確認されたのは、洲本市の山麓にある 2 か所(A 地点・B 地点)である。

A 地点は標高 100m の池(堤長 68m)の流入部分に築かれた古い砂防ダム付近の林縁で、ツルギキョウは樹高 2m ほどのヤナギイチゴに絡んでその樹上まで生育している(図 1)。個体数はヤナギイチゴの株元をきちんと調べていないため不明であるが、複数の幼体があるのを確認している。地質は花崗岩質で、砂防ダムの上には岩盤があり小さな滝が流れている湿潤な環境である。岩崖には、多数のヘラシダ、ノコギリシダが着生し、砂防ダムの奥にはマタタビ、林床にはフウトウカズラ、林縁部はヤナギイチゴ、スズメウリ、オオツヅラフジ、ヒメコウゾ、ムラサキニガナ、カテンソウなどが繁茂する。また林床から少し離れた明るい沢の中心部分では、ミヤマタゴボウ、ミズヒキ、アカソ、イラクサ、アオミズ、コメナモミ、メナモミ、タケニグサなどが見られた。スズメウリがヤナギイチゴに絡み、ツルギキョウと競合している。

¹ 〒656-0024 洲本市山手 1-3-18, ² 〒673-0870 明石市朝霧南町 4-8-40